

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	年度初めに昨年に掲げた理念を職員全体で会議において検討し、共有している。		「地域」の中に根ざしたサービス機関として、活躍できるよう、取組んで生きたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員に配布され、日々の業務に反映するように意識付けている。		今後も継続していく。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる			
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人々とは気軽に声を掛け合ったりしている。	○	器楽に立ち寄ってもらえるような関わりが出来ていないが、小さな子供が時折、自転車でホームの前に遊びに来る。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会等に声掛けしていただき、参加している。	○	参加の場を広げていくように自治会との連携を深めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を定期的に開催し、意見交換や地域活動（小中学校生登下校時の見守り運動等）を実施している。	○	当自治会より勤務している職員がいるので、自治会議などで協力できることがあれば、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価・結果を全職員に伝え、改善に取り組んでいる。		評価結果は全職員に伝え、改善点においては検討し、前職員協力の上、取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時・緊急時の対応や自己防止策。避難地域等の検討等の意見交換を行い、地域とともに救命救急の実施や検討を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のための検討で困難な時や事故報告等、今後の検討課題があれば相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて相談に応じている。実際に日常生活自立支援事業に申し込まれている利用者はいるが、なかなか順番がまわってこない。	○	必要がある際には、活用できるように支援し、定期的に職員間で学ぶ機会を持っていくようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットを配布し、職員会議で学ぶ機会を持ち、職員の意識付けを図っている。	○	定期的に研修し、防止に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が自己表出できる様に対応には十分配慮し、不安・疑問を聞き、説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満・苦情に対しては傾聴し、連絡ノートや申し送りにおいて周知し、対応している。	○	不満・苦情を真摯に受け止め、すばやく解消できるように努めていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者の暮らしぶり等については担当者が1回/月お便りを通して行事予定と共に報告している。金銭に関しては出納帳のコピーにて報告している。	○	健康状態の変化や特に悪化が予想される場合は、素早く報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況変化に伴い、勤務調整に努めている。		必要時、管理者と相談し、職員と話し合いの上、勤務調整を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の希望が職員から出された時は、原因等を聞き、改善できる点があれば配慮し、定着してもらえよう努めている。入所者から離職職員に対することを聞かれた場合は混乱しないように説明している。	○	職員の定着を図るために、時々声か消し、話しやすい雰囲気作りをし、相談にのっている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて、様々な分野における研修を1回/月実施している。	○	法人内・外の研修案内の情報を今後も拡大していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームの行事に参加したり、中地区・堺市全体のグループホームの会を立ち上げ、意見交換・相互訪問等を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に親睦会を持ったり、相談できる職場関係でいられるようにしている。		休憩室にはテレビを置き、リラックスできる場所として確保している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員全員が役割を持ち、行事を実施したり、業務対する取り組みを職員全体で検討している。資格取得等にも前向きに取り組み、向上心を持って、勤務出来る様に取り組んでいる。		研修案内が送付されてきた時は、閲覧し、優先的に参加できるように休日調整を行い、参加できなかった職員には伝達講習にて伝えることができるようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に面接し、はなしやすい雰囲気努め、丁寧な接遇で安心感を与えるように留意している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴と受容を重視し、相手の意向が聞きだせるようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの特性や利用状況・本人の身体状況・生活状況を加味した上で十分説明を行い、対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイの利用をしていただき、実生活をご理解いただいた上で、サービスが開始できるかどうか検討・相談をしている。	ショートステイで生活を体験していただき、問題なく慣れ親しんでいただけるよう工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意な事を探し出し、活躍の場を提供し、職員と一緒に過ごしながら支えあっている。	ゆったり接する気持ちを持ち、支えあう関係の構築に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を月1回 新聞にて担当者が報告をしたり、面会時にご要望を聞いたりして双方に情報交換し、本人を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のおたよりで行事案内をし、家族に参加を呼びかけ、共に過ごしてもらう機会を持つ様に支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容室に出かけたり、外出したりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、行事や外出により、より親睦が深まるように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても必要な情報を伝達したり、必要に応じて相談や他のサービスにつながるような支援をしている。	○	サービスが終了後も継続的な関わりを必要とする要望があれば、柔軟に対応していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のあらゆる場面において、さりげなく会話をし意向の把握に努めている。	○	本人の意思を尊重し、出来る限り利用者本位に対応できるよう努めていく。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居される方には入居時にこれまでの経過を本人・家族より聞き、把握している。	○	すでに入居されている方には、センター方式を活用し、情報収集をしている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活において、様子を介護記録に残し、有する能力の把握に努めている。	○	心身状態に変化がある時には、特記に記入し、申し送りで情報を共有し、職員間で把握できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族とは機会あるごとに意向・要望を聞き、又、職員の気付きを基にカンファレンスを開き、介護計画を作成している。	○	ご本人の意向をまず第一に優先し、その人らしく暮らせることを目標に計画を作成している。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて定期的にカンファレンスを開き、関係機関に意見を求め、見直しをしている。変化が著しい時は、その都度、計画を作成している。	○	状態の変化が著しい時には、速やかに管理者に報告し、カンファレンスを開き、計画の見直しを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は職員が毎日ケースに記録し、特変があるときは、申送り時に情報を共有し、話し合っている。	○	気付きのケアの実践については、日々のサービス・モニタリング記録をチェックし、介護計画の見直しにつなげている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前に不安が強いご本人・ご家族には、体験的な意味を含め、ショート利用を実施している。	○	同一法人内における他施設の紹介・見学等を希望があれば随時、行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回、隣接している保育園児の訪問・ボランティアの訪問があり、協力して頂いている。	○	消防訓練には消防署立会いの下、消火器の使い方や散水指導を受けている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今は本人からの要望がない為、行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所のみで、判断しがたい事故・相談・生活管理等については、包括支援センター及び市町村の地域福祉課、保健センターとの協働で随時、相談援助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を十分に尊重し、通院が出来なければ、往診をしていただき、日常生活を含めた相談を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に受診を行い、利用者の状況を確認していただき、常に連携・相談を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設されている診療所の看護師とは全ての事において、相談・対応していただき、状態を把握していただいている。日常の変化にも報告・相談を行っている。		転倒時における外傷や熱発時には、常々連絡し、連携を図っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、医療機関と心身の状況の情報交換や相談し、退院後、スムーズに生活が出来る様に充分ンア連携を図るようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化すると予測される利用者については、医師を交えて話し合い、家族の意向を確認の上、方針を共有している。		家族の意向・医師の説明を十分話し合い、方針を共有し、出来る限り支援できる体制作りをしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医には定期的な受診を行い、施設でできる範囲の理解は得られている。終末期には、夜間でも連絡が取れるように協力を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	納得されるまで、十分話し合いを行ない、本人が理解できる時は本人への話し方を相談し、出来るだけ、ダメージが最小限に抑えられるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内にて行われる勉強会に参加し、言葉掛けや接遇・対応には配慮している。記録・日々の生活内々でも個人情報には充分配慮し、取り扱うようにしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段から自己表出できるように信頼関係の構築に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日の心身状態を配慮しながら支援している。	○	外出や買い物の希望があれば、家族の協力を得ながら、柔軟に対応していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	施設内の訪問理容等のサービスを行っているが、本人が望まれる時は、行きつけの美容室に行ける様に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の食器の準備や片付けは本人の持てる力や好みに合わせて手伝ってもらっている。	○	食事を楽しんでもいただける工夫をし、準備から片づけまで、協力して行える体制作りをしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては、疾病等の制限がない限り、状況に合わせて日常的に楽しめるようにしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表によりパターンを把握し、声掛け誘導を行っている。	○	羞恥心に留意し、排泄パターンを全員が把握し、支援を継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	共同生活である為、時間帯は大まかに決めてあるが、入浴については、体調や希望に合わせて行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はレクや散歩・家事をしていただき、安眠出来る様に支援している。昼食後は本人のペースで過ごせる様、ゆったり休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の得意な分野で力を発揮していただけるように家事・役割を分担したり、外出により気分転換を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	入居時に金銭の取り扱いに関して、意向を確認 し、対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	その日の希望には対応できない時もあるが、事前 に希望を出していただくと検討し、少しでも要望 に近づけるように対応を検討している。	○	気候の良い時は、外出できる機会をつくり、家 族・知人等の協力を得ながら、外出できるよう支 援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	家族の協力が得られる場合は、制限なく外出して いただけるようにしている。その他に関しては、 気候の良い時に、昼食・おやつ等を持参して出か けられる機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	手紙を書かれたり、携帯電話を所持されたり、特 に制限はしていない。希望される際には、施設内 にある公衆電話を利用している。外線から本人宛 の場合にも取次ぎを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	特に面会拒絶の方以外は、面会時間の制限を設け ず、室内にて過ごされたり、フロアで過ごされ たり、気軽に自由に過ごせる様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	法人全体で委員会を設け、定期的に話し合い、検 討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害については、職員全員が理解しているが、玄関においては実践されていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在確認に努めている。フローア入室時、退室時には必ず人数の確認は行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人に理解をしていただき、保管している。		一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて対応しているが、想定外の出来事があるため、今後の取り組みを検討する必要がある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人全体で、事故防止委員会を設け、事例検討を通して事故防止に取り組み、結果をグループ全体にて報告している。	○	事故再発防止のための検討会をし、危険回避できるよう、状況判断を行い、再発防止に努めていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人全体において勉強会が実施され、緊急時の対応や事例検討等を行っている。消防署よりAEDの取扱いや心臓マッサージ等の講習を行っている。	○	利用者の急変時や自己発生時に戸惑うことなく対応できるよう、訓練を継続していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練として消防署の協力を得ながら定期的に行っているが地域との連携については、運営推進委員会において連絡・相談を行うと共に、地域マップを共有したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	お手紙や面会時には状況を伝えたり、緊急を要する時は電話連絡をし、起こり得るリスクについては職員間で話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を発見した時は、職員間で情報を共有し、速やかに看護師・医師に連絡し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は副作用に関しての説明書が個人ファイルに保管されており、理解している。	○	始めた処方された薬がある時は特記事項に記入し、職員間で情報を共有し、変化等に配慮している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常、身体を動かしたり、水分を摂取したり、工夫はしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科医、歯科衛生士より、週1回のペースで口腔ケアを実施していただいている。他にも義歯使用者にはホリデントを週1回行うなどの支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼しない方や嚥下困難の方には、食事形態を検討し、提供している。特に摂取量が少ない方に対しては、栄養補助食品も提供している。		栄養摂取量が極端に少ない人には、医師や家族とも連携をしっかりと取り、対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人全体で感染防止委員会を設置し、感染症に対するマニュアルがあり、対応出来る様になっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎日、熱湯・除菌消毒を行い、調理用機器は使用後、天日干しにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節ごとに花を植えたり、玄関には解りやすいように季節にちなんだプレートをぶら下げている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関と食堂には入居者の取り組んだ塗り絵カレンダーを貼り、季節感を出したり、食堂テーブルには季節の花を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ等置いて、気の合った利用者同士でお話されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	愛用品や馴染みの品物を持ち込み、居室内におい ては心休まるように過ごしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	適宜、居室・デイルーム・浴室については換気を行 っている。トイレについては24時間換気を行っ ている。	○	今後も継続して、快適な空間の維持に努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	フロアは全面、バリアフリーになっており、ト イレ、風呂、廊下には手すりを付けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の部屋には馴染みの木々の表札をつけてい る。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外周は散歩に利用している。外回りには ジャガイモやサツマイモを栽培し、収穫を毎年楽 しんでいる。	○	花壇の花の種類を増やしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・日常生活内で、さまざまな役割を決めている。その人の能力が活用できるように、持てる力を発揮しながら、生き活きと過ごされています。

・自分のペースで過ごしていただき、居室で過ごされる方、他の方達とレクリエーションや外出・コミュニケーションを通して、ご利用者様がご利用者同士、馴染みの関係を築きながら快適に過ごされています。